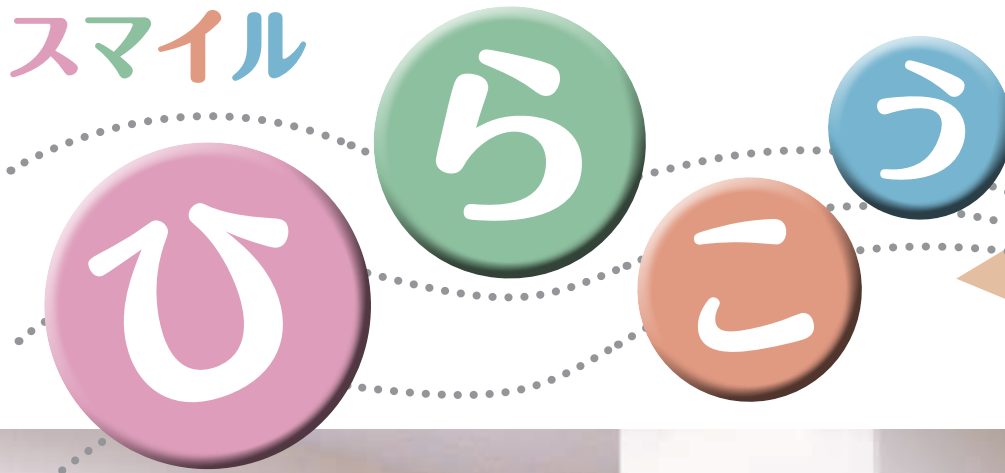


スマイル



特集1

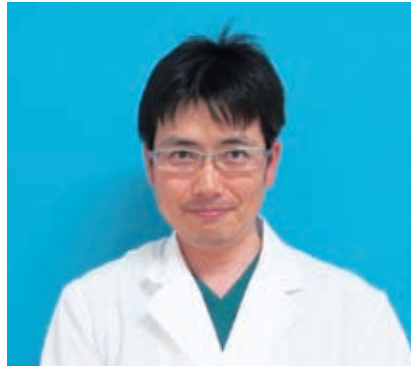
当院の救急科について ~第19回救急懇話会開催~

特集2

呼吸器新任医師紹介

災害医療訓練／Information／副院長のひとり言⑧／看護フェア

当院の救急科について
第19回救急懇話会開催



救急科
竹中 洋幸

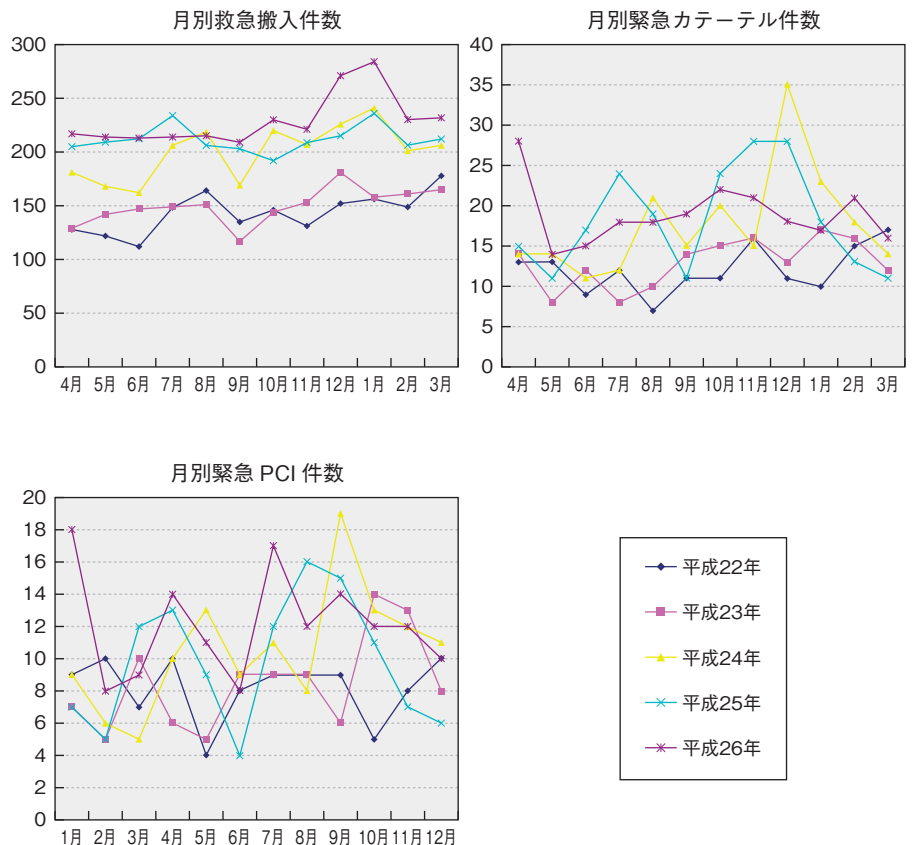
いつも先生方には大変お世話になりこの場を借りて感謝申し上げます。

当院救急では循環器救急を主体としながら可能な限り他疾患領域の患者さんも受け入れてきました。高齢化社会となった昨今、救急対応を迫られる患者さんの多くは多疾患を抱える高齢患者さんになり、体調が悪いのは明らかでも、診察するだけでは病態把握が難しい場合が少なくありません。得意・不得意疾患領域がある、中規模の2次救急病院では病態がはっきりしない患者さんを受け入れにくく、救急患者さんの紹介や受け入れがスムーズにいかないのが現状です。そんな中、当院では3年前から内科系ER型救急と銘打って診察に加えて必要な迅速検査を実施し病態把握を進めながら必要な対応をする体制づくりを進めてきました。未だ完全な体制とまでは言えませんが、お蔭様で沢山の患者さんをご紹介、救急搬入頂けるようになりました。受け入れ要請が増加する中、地域医療における自分たちの仕事の意義の大きさを実感しています。

今回の救急懇話会では当院救急に携わる4名のスタッフからお話を提供させて頂きました。多数の救急隊の皆さんにご参集いただき、お互いの考えを分かち合っ

て親睦を深めることができたことと喜んでます。

今後も一人一人の患者さんを大切にしながら地域からの信頼を得て貢献できるよう努力していきたいと思ひます。



第19回 枚方公済病院 救急懇話会

◆参加者◆

救急隊 59名 院内職員 35名 計 94名

◆プログラム◆

「アウトプット型研修による知識定着の効果
～胸痛を主訴とする救急初期対応の研修を通じて～」

外来看護師 石川 由美

「印象深かった救急症例」

循環器科 大上 真理子 岡崎 善則

「救急とめまい」

総合診療科 野本 尚





外来看護師
石川 由美

昨年来外では胸痛初期対応の研修方法について看護研究に取り組みました。救急外来では専従ではない看護師も救急対応にあたります。今までも院内では研修がありましたが、救急対応に対し不安を抱えている看護師が多くいました。そこで工夫を加えた研修方法

として、受けた研修を他者へ伝達するアウトプット型研修を実施し、その効果を検証しました。講義を聞くだけではなく、自ら伝達することで復習にもなり、研修前より28.7%上昇した研修直後のテスト結果が、1ヶ月後もほぼ維持される結果となりました。この研修方法が今後実際に看護師のレベルアップに功を奏することができればいいなと思います。



循環器科
大上 眞理子

今回、救急隊の方が実際に搬送してくださった症例を2例発表しました。

お一人は下肢痛で搬送されたA型大動脈解離の方、もう一人は不穏状態で搬送されたクモ膜下出血の方です。非典型的な症状で搬送され、致命的な疾患が見つかった

ので、非常に印象に残った症例でした。

普段救急隊の方とは患者さんの容態について以外は話をしないので、気負いのない場所で意見交換できて楽しかったです。今まで救急隊の方から申し送りを受けた後は、忙しそうなので時間をとってはいけないと思い、敢えてお話ししないようにしていました。実際は心電図や血ガスのデータなどを必要とされていることが分かりました。今後はもっと現場で交流していきたいと思います。



循環器科
岡崎 善則

山口大学医学部卒、卒後4年目で循環器内科を専攻しています。私も地域の救急医療の一員として日々様々な救急症例に奮闘しております。その中でも、急激に呼吸不全をきたした急性心不全の患者さんについて、先日の救急懇話会で発表させていただきました。呼吸

苦で救急搬送され、目の前でみるみる呼吸不全が進行し意識消失されました。発症から気管挿管に至るまで、わずか1時間強でした。時として待たなしの状況になり得る救急医療。参加していただいた救急隊の方々との協力し、これからもこの地域の救急医療の役に立てれば、そう改めて思えた懇話会でした。



総合診療科
野本 尚

めまいの診療において注意すべき点についてまとめて発表しました。

ふだん経験しない頭痛を伴うめまいは、SAH、脳出血を考え、脳外科受診、「ものが二重に見える」「しゃべりにくい」「半身のしびれ、脱力」を伴うめまいは、脳卒中ユニット受診が望まれます。他は「①

回転性」「②立ちくらみ、眼前暗黒感」「③動揺性、浮動性」に分け、②なら脱水、貧血、消化管出血、低血圧、循環器系救急疾患を考えます。①、③では脳神経学的異常あれば脳MRI等で精査、なくても慎重な経過観察が必要です。救急隊の方々始め、多数ご参加いただき有り難うございました。



心臓血管センター長
北口 勝司

先生方には、いつも当院の救急をご利用いただき誠にありがとうございます。私が京阪奈病院（枚方公済病院の旧称）に着任してほぼ12年になります。当院で循環器救急を始めた当初は、仮設のCCU 2床で、その一つが救急用ベッドという究極の野戦病棟でした。その中で感じたことは、救急医療へのニーズの強さでした。救急隊も設備が不十分であることを百も承知で、それでもたくさんの患者さんを搬送してくれました。大切なのは設備じゃない、人なんだ、しんどい人を何とかしてあげたいという人の気持ちなんだと強く感じました。

救急隊との勉強会も今回で19回となり、出席いただいた人数も過去最高の59名でした。ありがとうございます。設備も人の数もおかげさまで、信じられないくらい充実することができました。ただ、原点である、しんどい人を何とかしてあげたいという医療者としての気持ちを大事にしていきたいと思っています。これからも枚方公済病院は断らない救急を目指していきます。

呼吸器新任医師紹介



呼吸器内科

奥田 みゆき

7月より呼吸器内科医として赴任いたしました。前勤務先では、呼吸器疾患と循環器疾患を中心に診療しておりました。特に、急性冠動脈疾患の患者さんを中心に枚方公済病院の皆様には大変お世話になりました。

呼吸器疾患の中でも、呼吸管理と包括的呼吸リハビリテーションを専門にしています。呼吸管理の地域完結型医療を実現するために、病病連携から在宅における多職種連携を強化し、病院を超えた学際的チーム医療の機能することが大切と考えて、河北循環器呼吸ケア研究会の代表世話人をさせていただきます。

今後も、地域の先生方や在宅看護師・リハビリテーションなどのメディカルの皆様と連携を強化させていただき、慢性呼吸不全の患者さんが楽しく在宅生活が出来るお手伝いをさせていただきたく思います。よろしくお願い致します。



呼吸器外科

田中 順也

はじめまして、7月1日から赴任いたしました田中 順也（大阪生まれ、大阪育ち）と申します。大学では、呼吸器外科を専門にしておりましたが前任の病院では外科医の数の問題（外科医は絶滅危惧種といわれています）もあり甲状腺から痔疾患まで対応しておりました。外科医としては高齢？かもしれませんが、田中副院長の下で腹腔鏡下手術について研鑽を積むと共に気胸・肺癌など

の胸部外科手術症例を増やしていき少しでも病院に貢献できればと考えております。

お話大好きな外科医ですので何なりとお気軽にご相談ください。



災害医療訓練

6月2日、当院で初めての災害医療訓練を実施しました。病院が倒壊などの危機に面した際の非難、誘導を目的としたものではなく、地震などの大規模災害時に殺到するであろう被災患者に対応するために行いました。病院職員の約5分の1に当たる100名弱の職員が参加しました。



Information

● 地域医療連携室 事務課長交代 ●

連合会の人事により、7月1日付にて東海病院（名古屋市千種区）に転勤を命ぜられました。平成15年に新香里病院より転入以来、地域の皆様のおかげをもちまして職務を行うことができました。至らない対応も多々あったものと思いますが後任の中村課長代理、地域医療連携室及び枚方公済病院を今後ともご愛顧いただけるようお願いいたします。ありがとうございました。



地域医療連携室 事務課長
高砂 直樹

はじめまして、中村輝之と申します。沖縄生まれ、大阪育ちの関西人です。これまでは企画課→情報システム係→医事課→施設用度課を経験し、この度、地域医療連携室へ配属となりました。いろいろご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、精一杯がんばりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



地域医療連携室 事務課長代理
中村 輝之



枚方公済病院 副院長
田中 満

最近、日本列島各地で火山活動が活発化し、噴火や地震が増えています。何か不気味な不安が心をよぎります。と言いますのは、少し古い映画です。ご存じない方もあるでしょうが小松左京原作の日本沈没というパニック映画がありました。確か映画の筋書きは、最初地殻変動の異常が確認され、その後地震や火山噴火などの火山活動が活発化し日本中に地震災害が広がり、最後は日本列島が海に沈んでしまうというようなものだったと記憶しています。現在の日本も東日本大震災の後、地震活動が活発化していますがこのまま日本が沈んでいくとは到底考えられません。しかし、世間では大きな地震災害が近々来そうだと叫ばれています。今、日本中で災害対策に取り組んで地震に対する対策を強化しています。当院も6月2日に災害訓練を実施しました。本格的な訓練は初めてでしたので、不慣れな点が多く今後の課題もたくさん出て

きました。私は訓練で重症患者にされ、救急室から死体安置室まで広い院内をストレッチャーに乗せられて引っ張りまわされました。死んでいるはずの私は段差を通る時の思わぬ衝撃に耐えながら過ぎ去る廊下の天井を眺め、本番ではいったいどうなるのだろうと考えました。訓練ですら細かな問題が生じ救護活動がスムーズに進みません。手順は訓練を繰り返し修正していけば問題が解決されると思います。しかし、私たち病院職員一人一人についてどうでしょうか。先日阪神淡路大震災を経験された先生が講演の中で、災害時に病院職員はまず自分や周囲の安全を確認し、自分に何が出来るか考えて行動しなさいと述べられておられました。実際には通常のシステムが破綻しており訓練通りに行動できないことを肝に銘じておかなければなりません。最後に個人的にはただただ災害の起こらないことを祈るばかりです。

理念と基本方針

理念
医療への貢献と奉仕

基本方針

- 地域における中核病院として、快適な療養環境と高度な医療を提供する。
- 患者さんの立場を尊重した合理的かつ安全な医療を行う。
- 病院は働き甲斐のある職場を整備し、職員は知識と技術の研鑽に励む。
- 強く、優しく、頼れる病院を目指す。

看護フェア



5月19日(火)
看護フェアの
イベントを行いました。



編集後記

今回初めて「スマイルひらこう」の編集に関わり、当初はまとめることができるかと心配しましたが、先生方、職員の皆様にご協力頂き充実した内容の広報を発行することができました。また、編集に携わって頂きました皆様大変感謝しております。

今回は当院の救急科をメインに取り上げました。そのきっかけは、私が入職した時に「断らない」という救急医療体制に非常に感銘を受けたことにあります。当院では救急懇話会などで、救急隊とも顔と顔を合わせた関係性を築き、地域医療ネットワークの構築を図っています。この機会にぜひ皆様に当院の救急科について知って頂きたいと思います。

今後とも、「スマイルひらこう」の編集に工夫を凝らし、最新情報を発信していきたいと思っておりますので宜しくお願いいたします。

地域医療連携室 中島 慶子



国家公務員共済組合連合会
枚方公済病院

〒573-0153 大阪府枚方市藤阪東町1丁目2番1号
TEL 072 (858) 8233 FAX 072 (859) 1093
<http://kkr-hirakoh.org/>